

令和5年度 岩内町立岩内西小学校 学校経営方針

1 はじめに

未来を生きる子どもたちが夢を持ち可能性に挑戦するために、学校は「生きる力」を育んでいく使命がある。複雑で予測困難な社会であるからこそ、変化を前向きに受け止め、感性を働かせて人生をより豊かにすることや、複雑・多様化した現代社会の課題に対して「主体的な学び」や多様な考えを持つ人との「協働」を通じて、課題解決につながる新たな価値観や行動規範を生み出すことが必要となる。

4年目を迎える現行の学習指導要領では、「生きる力」をより具体化し、教育課程全体を通して育成を目指す資質・能力を3つの柱に整理している。具体的には、①何を理解しているか、何ができるか（知識・技能の習得）②理解していること、できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等の育成）③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力・人間性等の涵養）ということが確実に達成できるようにしている。本校においても、子どもたちの資質・能力を育成するために、カリキュラム・マネジメント、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善、家庭や地域との連携・協働を組織的に推進していく。

また、3年後に開校する岩内町義務教育学校（仮称）のスタートに向け、昨年度まで行ってきた道指定の「小中一貫教育サポート事業」の成果を確実に継承・発展させ、町内小中学校4校の足並みを揃えた教育を行う。9年間を見通した教育目標を設定し、それぞれの学校課題の解決を前提に、共有化・共通化を今まで以上に図り、幼～高のスムーズな接続を行いたい。

さらに、学びの保障とした始まった全校児童1人1台端末を活用し、GIGA スクール構想の実現に向けた教育実践を積み重ねる必要がある。個別最適化な教育を推進するため、日常的にタブレットを使用し、これまでの教育実践と日々進化するICTのベストミックスをさらに図りながら、子ども力を伸ばすことにより、教師自身の資質・能力も高めていきたい。

学校教育とは組織の営みである。全教職員の学校経営参画意識の向上を図り、協働の意識を持ち学校教育を推進していく。

2 学校教育目標

「伸びる喜びを見つけよう」

学ぶよろこび

助け合うよろこび

やりぬくよろこび

3 重点目標

自ら目標に向かって進み 共に支え合う 西小の子

令和4年度の学校評価では、成果として、児童アンケートの35項目中20項目（教職員は11項目）で肯定的な意見の合計が9割を超えた。そのうちの11項目は前期よりも1割以上増加している。つまり、自分はよくできている（自己肯定感）と認めていて、これからもよくしていきたいと思っている児童が多くいることがわかった。課題としては、学力面では、「家庭学習」「読書」。豊かな心では、「目標を持ち、最後まであきらめないでやりぬく」ことであった。

そこから、今年度の重点目標として「自ら目標に向かって進み、共に支え合う 西小の子」とした。自ら目標を立て、それに向い努力し、達成する。そこには自らが動く「主体性」が必要となる。教育活動のあらゆる場面で「主体性」を発揮させたい。また、振り返りを行うことで自分の現在地を知り、粘り強く最後までやりきる力を身に付けさせたい。さらに、「友」「教師」「保護者」の力を最大限生かし、互いに支え合うことで、さらなる力を発揮させたい。

そのためには、教師と保護者が同じ方向を見て、学ぶ楽しさ、学び合う楽しさを味わわせ、子ども同士がそれぞれのよさを認め理解し、互いにより影響を与える姿を目指し、今年度の重点として取り組んでいく。

4 育てたい子どもの姿

- ◎主体的に学び、自ら歩み続ける子
- ◎自分と相手をとともに大切にする子
- ◎なりたい自分を思い描きながら努力する子

5 目指す教師の姿

- 子どもとともに学び続ける教師
- 子どもや保護者に信頼される教師
- 協働性、同僚性をもった教師

5 経営の基本方針

- (1) 子ども一人一人が「西小の宝」であるという認識のもと、組織的に教育活動を推進する。
- (2) 主体的に学び、協働する教育活動を推進し、生きる力を育成する。
- (3) 特別支援教育の視点を持ち、生徒指導と特別支援教育を推進する。
- (4) 保護者、地域に信頼され、つながりをもとに協働を推進する。
- (5) 他校種（幼保、東小、一中、二中）との連携及び小中一貫教育に向けた取組を推進する。

6 取組の具体的事項

組織的で実効性のある取組に向けて

- ①確実な「情報共有」 ← 「報告」「連絡」「相談」「確認」の徹底
- ②参画意識をもって「協働」
- ③いつでも誰にでもわかる「見える化」

(1) 学びの土台を固める

【具体的な取組】

- ①基礎基本の定着
- ②「西小そろえる活動」の徹底→4校共通の学習規律へ
- ③「板書指導案」を用いた学習過程にそった授業づくり→学習過程の統一
- ④ユニバーサルデザインの視点を生かした教室環境の整備
- ⑤ICT、タブレット端末の日常的な活用
- ⑥校舎内外の安全点検、備品の管理
- ⑦感染症対策の継続

【小中一貫教育の取組】

- ①東小と「リモートを活用した授業交流」「ミニ研修」
- ②二中と「乗り入れ授業」「家庭学習の取組方法」
- ③幼保と「スタートカリキュラム」「アプローチカリキュラム」

(2) 課題解決的な学習で「わかる授業」をつくる

【具体的な取組】

- ①「板書型指導案」を用いた日常的な実践の蓄積
- ②実態に応じた適切な課題の設定(課題解決学習の深化)
- ③思考力・判断力・表現力を育む場面の設定
- ④まとめ・振り返りの充実
- ⑤個別最適化した個に応じた指導
- ⑥家庭学習の充実(学年の数×10分)

(3) 温かい受容的な人間関係をつくる

【具体的な取組】

- ①「自己決定」をするの場面の設定
- ②相手意識を基にした「進んで挨拶」の定着
- ③相手を大切にする言葉遣いや行動の定着
- ④温かい学級、学校づくりが「見える」場面の設定
- ⑤自主性、思いやり、責任感を育てる異学年交流

(4) 健康な心とからだをつくる

【具体的な取組】

- ①粘り強く、最後まであきらめずに取り組む場の設定
- ②新体力テスト全校実施による実態把握と改善
- ③実践意欲を高め、目標を設定し継続して取り組む活動の実施
- ④生活習慣の意識付けを図る生活リズムチェックシートの活用
- ⑤食に関する指導、保健指導の授業実践

(5) 教育的ニーズに応じた適切な支援体制をつくる

【具体的な取組】

- ①通常学級の困り感を持つ子どもを組織的に支える体制づくり
- ②特別支援学級における子ども一人ひとりの特性の的確な把握と適切な指導
- ③校内支援委員会の充実と関係機関との連携
- ④幼保や中学校との円滑な接続に向けた個別の指導計画並びに教育支援計画の整備
- ⑤適切な支援のための特別支援教育の校内研修

(6) 信頼とつながりをつくる

【具体的な取組】

- ①積極的な教育相談や保護者との面談
- ②学校便り、HP、安心メール等による情報発信
- ③地域と連携した教育活動の工夫（生活科、総合的な学習、道徳、防災、環境、食育等）
- ④岩内町教育研究会を軸とした小中一貫教育の取組による授業改善
- ⑤関係機関とのスピード感のある連携